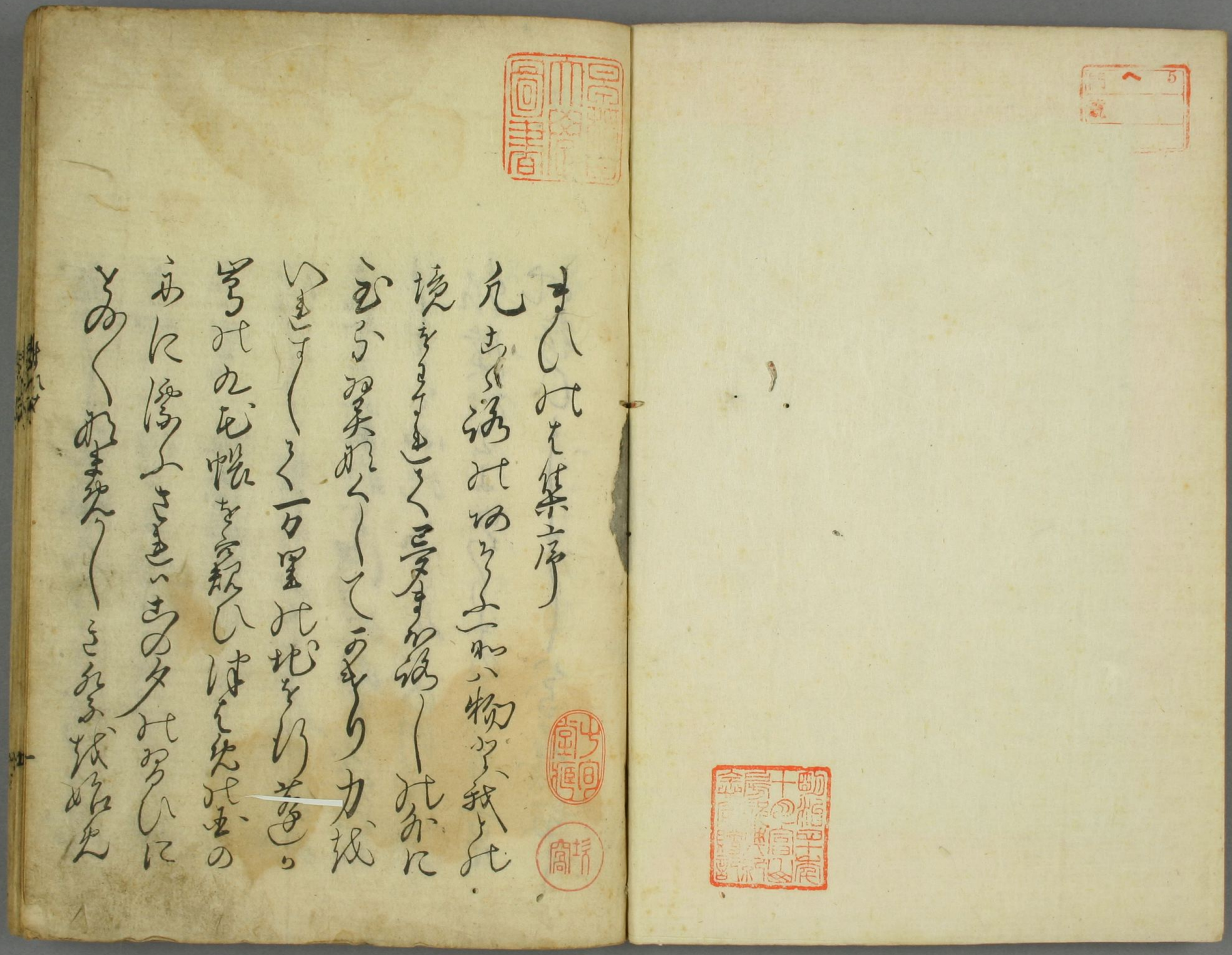
海空のはな集

全

へ5
1032



集序

元亨元年の春の比、物の心、我と
境をすまして、夢まぼろしの
如くなる事、
いまだ
写せども帳を
なほ

なさし紀数ハいまく乞巧の讌
をなし伴立の月宵の月に傾
き宮ハ琉璃盤を洗ふかことく
冷しき霊席の色あに志み
まだ生ハ黄ねる河の水ハ道を綺に
しくいのくさ木をわけう
銀漢の上よのわりまのあとり二星
の旅ひとりましハ名石をはねて
帰るし金命の事まくおわしハ
牛く織女の機上ろをはなき乞の
機樹にふけ人間の旅ひ物がた
りしぬ

浪苍逸民椿國

七日吟

諏訪閑遙

近く見ゆ今宵の月は二つ星

横山紅雪

銀河水北に出て西に流れ

星合よりしらむ鼓の

伴自

小弓は君が手ぶりの北の星

物に向ひ流れを十客の

面々品数をいく百韵をなかむ

森川行雲

淺茅地に流れをのこり鶴の

大小咲くをぐ鶴の北窓

うぐひす鳴くの声は色に

伴自

才麿

長柄の杓を持て三月の出る　我亮
小竹藪に掄を抱へてゐる　至得
いしきりの帆うよいの乳見　呂雄
本箱を端上へ出てゐる　飛海
野辺のかりに書の乳束　榛國
ウ
山の奥に城はわと乳つまり　林樵
どこやら武士の乳廉（カド）の有り　望夕
姫ゆかしと深の内の乳酒　海秋

手の内に玉を入て転ら　水玉
高しにあぐるこの欠もんせるを　執筆
日の出の乃山田の刷の乳色　我亮
菩薩ゆ様と仏とよるれ牡丹　才麿
筆の乳ちりにたもりちるかいな　榛國
本絵屋の姫の乳法て言葉　至得
辻ハうゝみの乳鳩尾（キウビ）さきゝ　呂雄
とゝうゝ空を大を焼の乳れ　林樵
　　望夕

社人衆うち連れ出て　海秋
月光に釣寢を見て記さまく　伴自
ひんまい山をとを海鹿　飛海
来面に醫者城似たる茅屋に彼風　磨
けりこゝばくに作持見立ち　國
山の浮ハまるうに加賀一入ち　得
きふる雨うちとく　自
あみよに孫ち長ち城抱くおち　樵

伏見に無ハ帳ちの毛敷ち　亮
ちま長い茅城孫ち色汁ハ　海
刀に柄に孫殺ちくい　雄
多芒城作ち新茅で吹く面　自
二階一ちた人ハ　夕
吹立く物も孫ち風山　秋
砂に年ち川狩に屋　磨
青くハて新茅ち月城　國

行ん方しらず長崎笑いて　得
厄害城辺まで神まつり立　亮
さらぬい金比羅山の一ばらい　自
ごちやくかけまゝ枇杷花　夕
まつ宮馬ら風に首ゆら　秋
乱んたる川一流せて悟く　雄
あの河端あて八合も入口　海
ふ山ずにおすゆ城清ゑ来　麿

小性まり、残あまはせるもり　樵
あ木ゑ寺八合法の張まく　得
庇へ吹く九櫂特ゆ月　國
下くハ御まゆあ分秋風　自
移ゆ咽ゑけバいく一本　雄
ゑ多くゆ親族あ多庇多　秋
伊丹郷一宿ゆ山吹　麿
永ゆ城ゑ足ゑ清ゑかいゑく　林樵

負之樗城榛ノ百枝　望夕
堪思代ニ髮城根ノ刺ガラ　榛國
樋ヤ[illegible]ざれよ雑城虎ヶ[illegible]　我亮
張ノ[illegible]に事拔ハ[illegible]ガ[illegible]伏兎越　飛海
[illegible]ん[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]成　伴自
世ハ[illegible]花に島泊ノ[illegible]　呂雄
場ノ[illegible]ノ絞ノ[illegible]ハ　榛國
餘ノ[illegible]ノ上を[illegible]ノ　才磨

[illegible]ノ[illegible]城脇押ノ[illegible]　至得
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]　望夕
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]　海秋
山門ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]　伴自
拔量ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]　林樵
進上ノ極ノ城神ノ[illegible]　榛國
太子傳ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ言　呂雄
出濤伏弓ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]　我亮

三ウ

[illegible]
四方に[illegible]入[illegible]
大ふ[illegible]宵[illegible]
[illegible]
[illegible]
温泉[illegible]
[illegible]
[illegible]

飛海
至得
才磨
海秋
望夕
林樵
伴自
才磨

名

[illegible]
[illegible]
家具[illegible]
[illegible]
[illegible]
世の中[illegible]
[illegible]
[illegible]

我亮
飛海
至得
自
國
夕
磨
雄

やうしを立てさる蛍を見れば　自得
数四れ立ちれ多くしく物食み　得
鍬眼乃頃し堂ばかさきら　蕉
懐れ銀杏黄ばみ　磨
豆腐まつ迄かゝる霜　海
書れ捨てに捨てた豆腐月　亮
古曽部の秋の場　秋
庵背に桃木の実に色　林蕉

ウ

ちくさいもの食み收みを　至得
剥刀の蘭ちさいく清腸立　伴自
無邪の疲のまゝ立ぬ　我亮
新しい棟を白く洗さすら　海秋
山の傾城ちゝ枝なれく　榛國
花ちゝさ栗れ人丸先ちゝは　才磨
煙れもり盤ちゝ引　飛海
君ゝ代に紙雛ちゝ袴ちく　望夕

田うゑ納へ分結構於立　呂雄

ぬしや誰　機織七夕　女文字　百海

星合の星とうとい川の幅ひばき　鈴木　文陽

寄ぢ立女よ多　七夕　佐佐　盃意

あれとうや　夕顔の花　口所　嵩独

涼うとさや　かれ枯　樺　小ら　南立

悪筆　城第ひ　夕ひ　笹ら　口所　柳雀

玄番　ぬしよ　玉川　眼　志ら　口所　合　口所　一笑

七夕や　角ら　年　口所　自牧

初こかし　雷　長沙　故真

星あり　後第　玉川　橋　佐ら　止青

ものを　七夕　三惟

名所の情をよみ　六月の夜　蛍火
大和路の杜鵑山　くれの春　如霰
夜の雨　梅雨星　ながめ　湖梅
星あひ　秋の夜　くや　紙の池瓶　東林
星ぬの夜八部の月　雲の田　良推
月　あひく　門の波　部の　椿外
七夕や　夕雲　香の香　千雄
夜星に　夜の雲　義草　志雀

夏の夜　ほたる　ほたる　右磨
月の星　夏の　七日星　酔磨
七夕に　夜の　秋の山　笠　伊与　鶏
七夕や　袴に　月の山　秋　若山　鹿夕
七夕や　夜八部の　秋の山　世中　秋　一株
夏の　秋の　游　星むし　正之
桃の　夏の　夜の　枝の　桃主
眠る　月の　会　羅勤賣　野桃

あかるさや老波未だに小豆　海秋

冷え来るかなしみ　荒枕　秋亮

みえそめし菊の枝乃ぬくもりを　至得

あるるるや蜘蛛のまる荒屋　飛海

七夕や荒(メジキ)屋もそうさ立　望夕

白粥に菊の葉ばかりのうまさ　榛國

七夕や霜に頭の糸はきく　呂雄

織姫や机に土に一世菊　林穂

水菊に菊の葉ばかりの二つ　才磨

撥桙集巻第二

立秋

秋ぬるや露にたてる杜のけ　才磨
茶壺まくせのに逢ぬ夕の秋　榛國
きぬ秋や三ぬ川の色　伴自
初秋や草の穂乃ぬ絵くよ　望夕
寝ぬる草むら記ぬ夕の秋　海秋
けぬ始やと絵く水の品の有　文陽

立秋の月外の所や行の秋　半隠
ぬ秋の梵鐘待亭のあつまり　愚竹
初秋や三ぬ坊立ぬ花ぬ　畔磨
ぬ秋の桐の天ぬ　野樋
何書ぬ風ぬ　右磨
はぬ秋ぬ
ぬ人まあ
樹の間に月の秋の懐ぬ　止青
ぬ秋の懐ぬ　至得

傍は草の道秋とハ見へてくもり　呂雄

其じ

絶口宮に對して

常ならむ火は明きまきりくれ　尾州　如行

塩竃は風の吹きりくれ　伴自

芭蕉

杉の穂にかへと木すゑも女ばかり　江戸　無倫

庭のもしに見ぬ樹肩の芭蕉かな　雪鳩

まる紙葉や紫和かのきもさより　蒼山　霖仙

もろきかの門に吹かまし紙かり　望夕

ちりの心いま未は芭蕉の破きより　伴自

雑談

守口の朝龍ゐより舟の中　飛海

まの盛ハまとも振いと紀白への　東里

朝顔は地を奥ゆかしく笠の骨　紀州　一株
雨の日や臺半ばすぎる蓑の裾　同所　潤水
旅寢や朝顔時雨ふる庵　同所　梨月

いれつま

稲妻に叢雲ひろげる山路哉　三惟
いなつまや所伝に晒ぬる行　指毛
いなつまや櫂さしぬ人のあるうら　榛國

しり

塩屋城なりけつらんひしぎ　呂雄
萩ふまれて初ものの雁くも　伴自

雜部

名栄の孫ちまき法師秋の山　諏訪蘭雪
酒まうく如の時ぞ一茶忌　如囊

つまをとく茶をとゝぶ上人一茶ゞ　芦船

宗下の所今のわらひや海道記　巷雲谷

深草の寺務よりく法師ゞ　晨夕

或法師の撫子の花の朝露の未
のこれる紅のこゝろあまりて青の義
をとゝのへ宗の心をもとゝ
ぬしとする所なり

吹とゝれる所人笛で秋の野　瀧雨

ちる秋の人の山ぶしく

秋の野や橋ゝ(ばし)ふに神詣ゝ　伴自

撥村集巻第三

孟夏

宿ゞ蕃やゝ部ゝたる郭公　本多一素

さゝ山ゝ阿蓋の夏りの歌　半隠

蚊のあとみな血ぐるまかな　伊与　若朴

中間のまけりに夜鶴のうり行よ
ちりちりとうの新をとうり

業平の餞風に寝ぬりほとゝぎす　俳自

山坂もうえ

神殿に麦の種たりし立夏　林蕉

芭蕉をおれば時を焼よ

長紙子ぬしみな食やまぶたもの人　如行

美人や山坂美人ひ肩ぶせく青海苔　俳自

寒さうや芋の葉ぬれ山　猿蓑

雜部

立里ふく代の哀やぶるくし　汎竹

鞍はれば蛍波うつ夕ぶさ　飛海

ちりの如や小舟の二三軒　望夕

山さくや代人の中のうの金屋　榛國

幸もし三和乃事訪公なゝてさ々句毎
其比めまかく定はとゝらよきし何を
待らんと銘を記すまにて在ことよのなれ
なゝ事りしなりか

雨蛙箱根枕とり煮売茶屋　呂雄

くれのちなやむらし屏風の一の岩　芦船

蕁菜の葉にのるかれのかゝる哉　我亮

しけの子や狐の穴抜とりまくれ　水鴎

もしかた茂の葵はいか笠うり　一方海

うりに来る子よ料かしけし花　長碎

木の葉よりお出やるか麦のなし讃　伴自

青月やまさ門しの麦かとり　野樾

撥掛集巻之四

皐月

うゑしより我れ行くまくはなびく　森川行雲

おもひ出るまつの伊万里焼　飯訪南迷

田に虹や子に出かせぬ　李多一素

かくれ蓑

庵所一庵よりすゝ一笠うゑ　園女

ゆるしに腰をかがめて笠を賣　紀州一音

松風や嵐の前の浅ぬかく　榛國

紙ぶくに風のうゑ笠うゑ　澗水

夜明しに嵐ぬのるとれば　燕石

雜部

さみだれや名のみ残る瀬田の橋　天雲

明うらの夜や梅ちる明方の月　舎誠

小野塚

おの塚にはまだ見ぬ人の面影　休計

濡てやか笠掛置て柳の蔭　哥吹

美しけや机も苔むす財の跡　松汲

植ぬ花の香ばかりの主なし　仝

くくひまやさ月後を明方の月　半隠

よし世やうをうさに公家の裏　才磨

振袖に鏡箱にて長生ぎ　仝

撥拂　第壱第五

湯水

横ぬ糸のうすにうつる物ゆ　伴自

きゝや蛙うゝこゝや昇みの川ゆゝし　何中
かゝる夏吹風のあつきゝゝ牛の真　伊勢　菊麿
おゝかの新の吹野ゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝ多　釣周
石狩望車の上、狩せし の事　呂雄
白雨や竹のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　仝
名月や雲の為なる涼すゝゝ　至得
あゝの戸に伊勢物語をゝゝ　仝
風鬼ゝゝゝゝゝゝ滝の水ゝゝ　椿州

夏の月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　蹴中
蛤ゝゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　望夕

福稲の流水

九重に夢覚ゝ中、狩遠ゝゝ　伴自
山寺や猪の声ゝゝゝゝゝゝ　半隠
宮人のいゝゝゝゝゝゝゝゝ　三惟
尼寺や人の門ゝゝゝゝゝゝ　東林
尼ちの垣ゝゝゝゝゝゝゝゝ　一株

[illegible]みや[illegible]　望夕

樹墨門の文に[illegible]の長、田舎[illegible]ひ
[illegible]ら[illegible]云[illegible]の例也
辞[illegible]く止[illegible]る、

長列萩

二の[illegible]場婚[illegible]陶[illegible]麻　捫撰

[illegible]紅葉やまの[illegible]下の[illegible]也　如葉

[illegible]金[illegible]うこ[illegible]毎[illegible]伊[illegible]屋　東里

[illegible]山[illegible]海[illegible]ハ子鯉[illegible]　海秋

[illegible]河[illegible]也[illegible]　愚竹

[illegible]の[illegible]黒[illegible]也[illegible]　我亮

[illegible]の[illegible]ひ[illegible]海[illegible]　三惟

[illegible]頃[illegible]れ[illegible]　呂雄

天[illegible]屏[illegible]日[illegible]　瀧夢

[illegible]の[illegible]よ[illegible]徳[illegible]
[illegible]の[illegible]也[illegible]紀に伊[illegible]
[illegible]
[illegible]

行[illegible]屏　伴自

曲录紙　色にすり高ぬ　榛國

うきみ紙や横ゝ海わた蟻通　仝

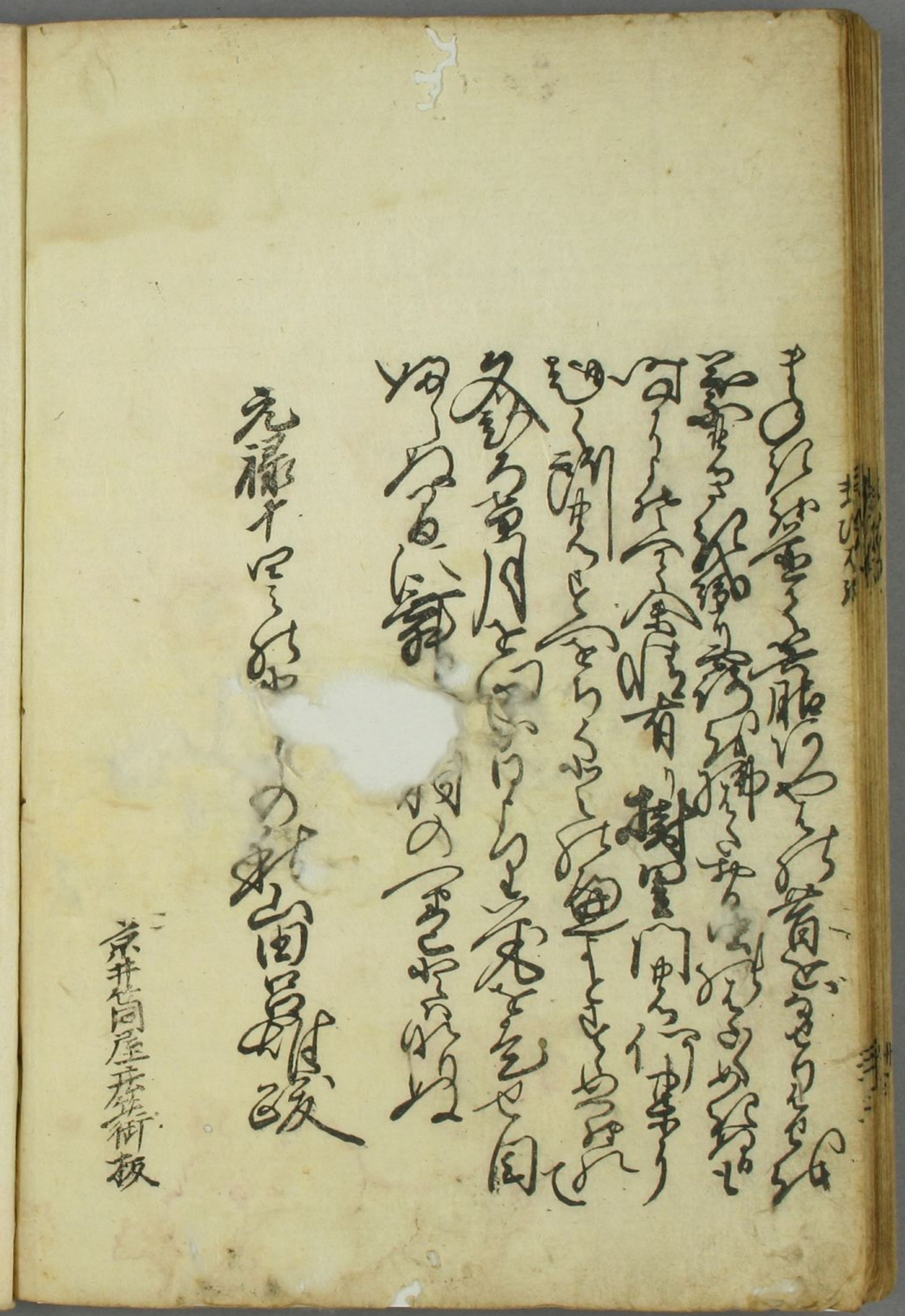
まつ庫ゝ清ゝ水ゝ　才磨

水色より上にたゞせくまぬ　仝

清ゝ紙ゝ

白ゝ紙ゝ三味線巻ゝ　膝ゝ上　来山

板材集ゝ紙



京井筒屋彫術板